

厚岸町における
セイヨウオオマルハナバチの訪花量の把握と
開花植物・在来マルハナバチ類への影響

大阪市立自然史博物館
長谷川匡弘

セイヨウオオマルハナバチとは？



腹部、胸部に黄色のバンド

お尻の毛が白い

- もともとヨーロッパ、北アフリカ、中央アジアに分布
- 日本には1991年に導入。その後野生化し分布拡大
- 道東では2006年ごろから確認が相次ぐ。
- 在来マルハナバチとの競合、野生植物への悪影響が懸念されている。

マルハナバチ類の「量」を把握する

- セイヨウの侵入で本当に在来のマルハナバチ類は影響を受けるのか？
→侵入前(またはごく初期)の量的なデータを基に比較検討する必要
- 調査方法
 - ・ルートセンサスを実施
 - ・ルート沿いの開花植物群落で10分間訪花昆虫を記録。
 - ・マルハナバチ類について訪花頻度(1時間当たりの訪花数)を算出。

調査地・調査方法



湖北地区(住ノ江丘陵公園、水鳥館周辺)



アヤマケ原地区



湖南地区(子野日公園、愛冠キャンプ場、御供山周辺)

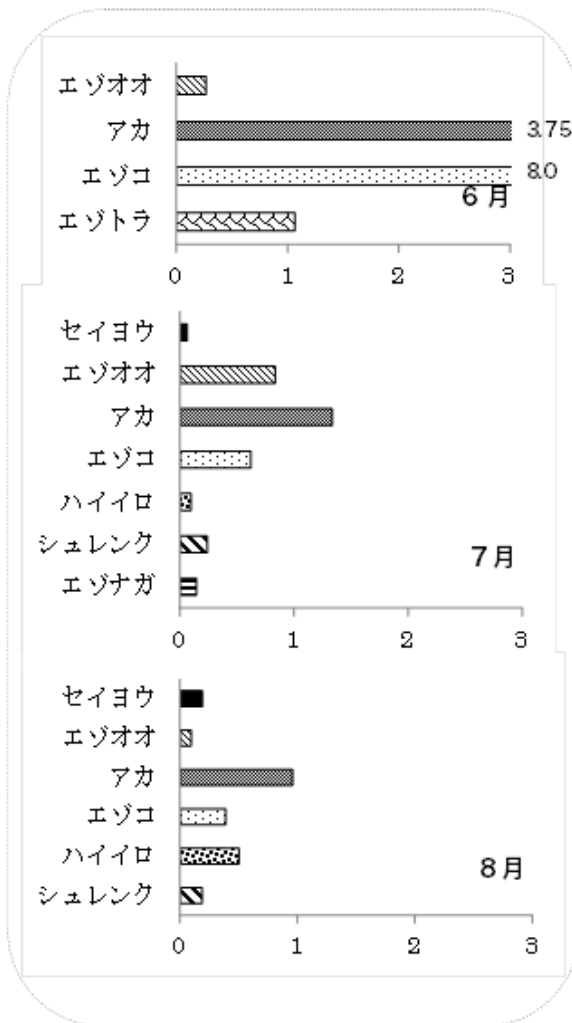
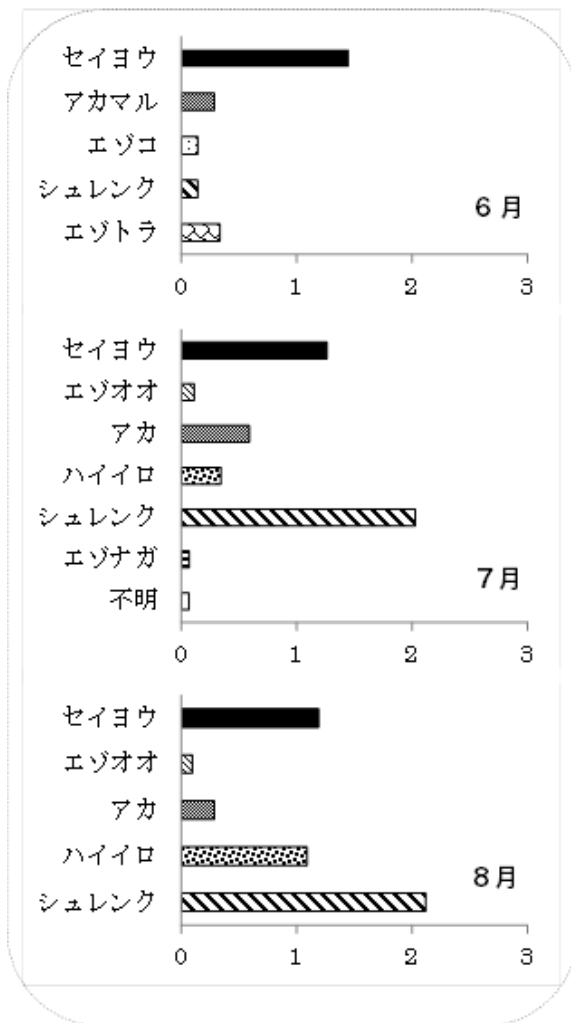


国有林地区(トライベツ川沿い周辺)

調査結果(市街地周辺)

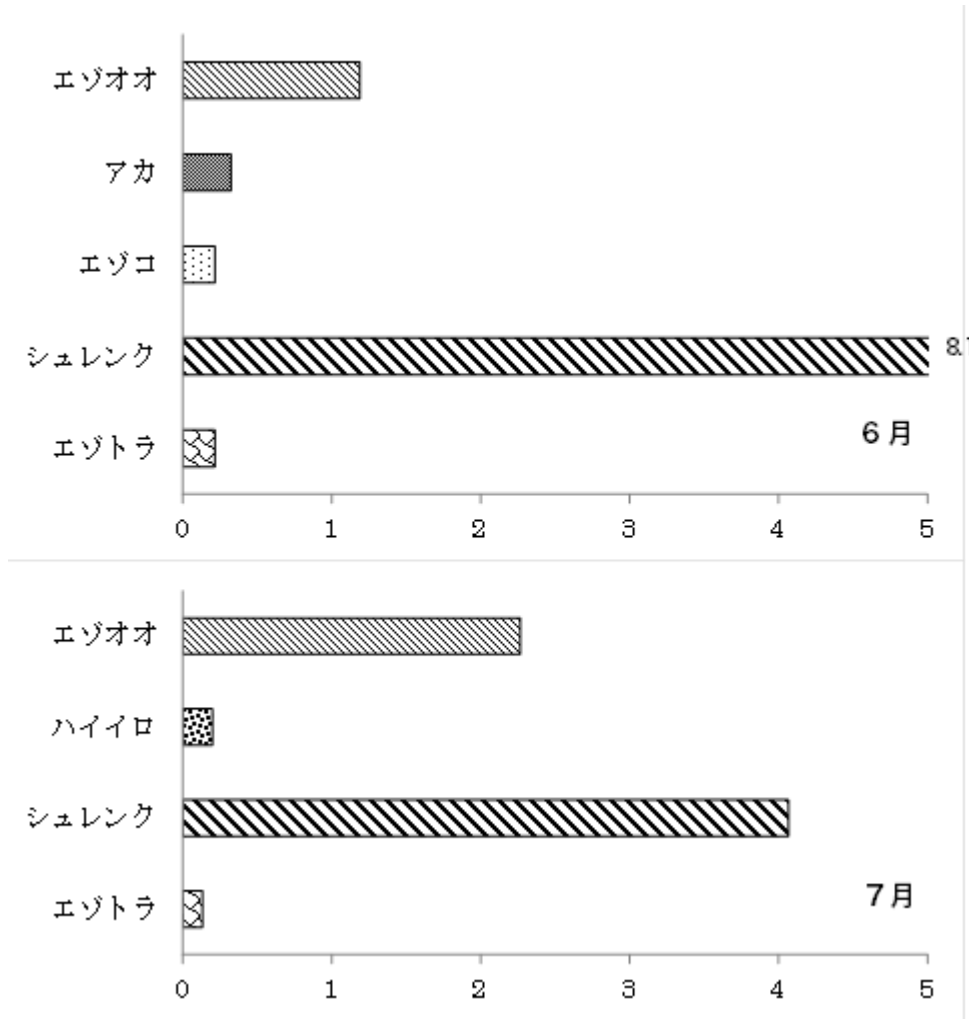
湖北地区

湖南地区



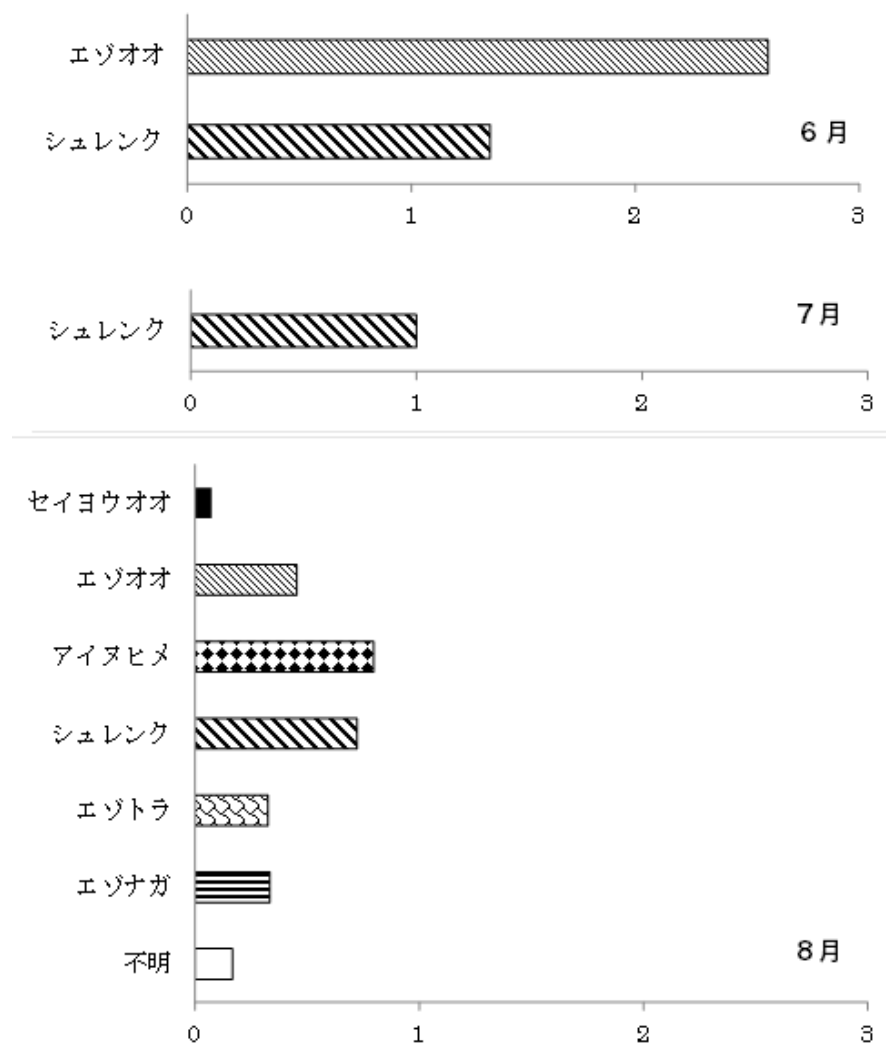
- マルハナバチは8種確認
- セイヨウは湖北で多く、湖南で少ない
- エゾオオは湖北でやや少ない？

調査結果（森林環境）



- セイヨウは未確認。
- エゾオオ、シュレンクの訪花頻度が非常に高い。

調査結果(海岸草地)



- セイヨウは1例のみの確認
- アイヌヒメの個体数が8月に増加
- 6, 7月は確認個体数・種数が減少したがシュレンク、エゾオオが多い。



まとめ



- セイヨウは湖北地区では普通に見られる。
 - エゾオオの分布の中心は森林環境と考えられ、現状ではセイヨウの侵入による影響は限定的。
 - アイヌヒメが生息する環境である太平洋沿岸部は、まだ本格的なセイヨウの侵入は認められない。
- 今後もモニタリングを継続していくことが望ましい。